



2023年7月号

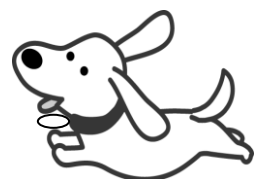
## 検査室だより

7月は大相撲名古屋場所です。ムシッとした中に鬢付け油の甘い香り、「夏」っていうよりも「梅雨本番」の名古屋の風物詩です。肌寒かったり、暑かったりして体調管理が難しい時期です。負けないように「はっけよいのこった！」。

汗をよくかくこの時期、脱マスクになってにおいも気になります。特にわきからのツンとしたにおいが気になる人もいるのではないのでしょうか。ヒトにはエクリン腺とアポクリン腺という2つの汗腺があります。エクリン腺は全身に分布していて、ここから出る汗は99%が水分です。一方アポクリン腺はわきの下や陰部、耳の穴など特定な部分にしかなく、たんぱく質や脂質を含んだ汗を出します。皮膚表面の常在菌がこれを分解することであの独特のにおいを発生させるのです。ワキガの人はアポクリン腺の数が多く、大きいということがわかっています。正式には「腋臭症」というワキガ。欧米人は10人中7人以上の人がワキガ体質であるのに対し、日本人は1人くらいしかいません。においが気になったら形成外科や皮膚科を受診してください。そこでは、まず治療が必要かどうかを判断します。数分間わきに挟んだガーゼを医師や看護師らがかいで判定します（なんと原始的な！）。主な治療方法は4つあります。塩化アルミニウムをベースにした塗り薬。継続的に加療が必要です。2つ目は最も確実に効果的な汗腺をとる手術。日帰りで行っている病院もあり、傷口が治るまでには2週間くらいかかります。この2つは保険が適用されます。汗腺の活動を抑える薬をわきに注入するボトックス注射。これは半年ほどで効果が切れるので打ち続けなければなりません。また、近年注目されているのは電磁波をわきに照射し、汗腺組織を破壊する治療法です。手術よりは効果が薄れますが、傷痕が残りません。においは主観が大きいものです。自分が気にしていても周りの人は何とも思っていないこともあります。もし不安なら一度受診して第三者に評価してもらってはでしょうか。



コロナ感染者がじわじわと増えています。「第9波のはじまりか!?!」とも言われています。3年ぶりの脱マスクの夏です。楽しい夏を迎えるためにもよく寝て、よく食べて体調を整えてお過ごしください。



公衆保健協会 検査室

